

第2回アビリティ実証都市研究会について

泉大津市都市政策部
都市づくり政策課

1. 概要

泉大津市では、「本来、人が持つ機能を最大限引き出す取組み」であるブレインブーストや、「身体の機能を取り戻す取組み」であるあしゆびプロジェクトなど、アビリティの実証に向けた取組みを積極的に実施しています。

アビリティ実証都市研究会とは、身体及び認知機能や能力（アビリティ）の回復、維持、向上、改善など広く健康を目的とし、その研究や技術、療法、製品などの効果や事業性などを検証、また研究開発や事業化、普及拡大の支援を行うための地域拠点整備等と国際連携などを検討するもので、平成31年1月に、第1回アビリティ実証都市研究会を開催し、「食と健康アビリティ」をテーマに、その他様々な分野のアビリティ関連の研究や事業などについて発表を行い、それらの連携を図りました。

身体や認知機能の改善や維持、向上には、姿勢や運動などが大きく関わることから、運動療法や整体、ストレッチ、リハビリ、鍼灸などの技法や施術、サービスが普及しています。しかし、その科学的根拠が構築できていないことや、理論や技術を持つ施術者の個人の能力への依存度が大きいこと、ロボット・AI・ICT・ビッグデータ化など先端技術との融合がないこと、医学や医療行為との連携が進んでいないことなどから、その産業化には様々な課題があります。

第2回アビリティ実証都市研究会では、テーマを「アビリティ機器・ロボット・AI・ICT」とし、それらの課題解消を目的とし、異分野の連携、地域共創による科学技術イノベーションを推進することを目標としています。

2. 開催日時

令和元年7月2日（火曜日） 14時～17時

3. 場所

泉大津市消防本部庁舎 市民研修室（住所：泉大津市池浦町一丁目9番9号）

4. 内容

○事務局による説明

「アビリティ実証都市研究会とリビングラボ、市民会館等跡地について」

○有識者によるセミナー

「泉大津から発信しよう！ロボット技術を活用した健康寿命延伸生き生き社会の実現」

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 産学連携部医療機器研究科

プログラムスーパーバイザー／大阪工業大学教授 本田幸夫氏

○事業者による関連技術の発表

5～8の事業者による20分程度の発表

○泉大津市長南出賢一 「本計画に対する泉大津市の取組み紹介」 ほか